

平成25年度
中山間地域づくりリーダー研修会（第3回）
中山間地域元気創出支援事業（集落支援事業）活動報告会



集落支援事業取組大学活動報告集

趣 旨

過疎化・高齢化の進む中山間地域では、産業活動の低迷や担い手不足が深刻化しており、集落機能が低下するなどの様々な課題を抱えています。

このため、県ではやまぐち中山間地域づくりサポートセンターのコーディネートのもと、県内外の大学、高等専門学校等と連携して、各大学等の特色を生かした学生による地域の課題解決のための集落支援事業を実施しており、今年度は、9大学等が20地域で支援事業に取り組みました。

今回の研修会では、大学生等による支援事業の報告と併せ、大学生等の外部人材による地域課題の解決策や地域活動の活性化策について検討を行います。

内 容

平成26年2月1日(土)

- 10:00 開会
- 10:10 事業概要及び実施状況の紹介
- 10:30 基調講演
「全国における大学による地域づくり支援について」
講師:法政大学現代福祉学部准教授 関司直也
- 12:00 [休憩]
- 13:00 分科会
 - ① 交流人口の増加支援
 - ② 地域資源を活用した経済活動の促進
 - ③ 集落づくり支援(健康・福祉づくり、伝承行事の継承等)
- 15:00 全体会
進行:島根県中山間地域研究センター研究統括監
藤山 浩
- 16:20 今後の取組について
山口県総合企画部中山間地域づくり推進課
- 16:30 閉会
- 17:30 交流会

CONTENTS

① 交 流 人 口 の 増 加 支 援

山口県立大学地福民／山口市地福ほほえみの郷運営協議会	3
広島修道大学三浦・富川ゼミ／萩市平山台果樹生産組合	5
山口県立大学鹿野人／周南市鹿野ブランド創出研究会	7
山口大学経済学部赤郷地域応援サポーター／美祢市赤間関街道WALK実行委員会	9
徳山高専中須北プロジェクトチーム／周南市棚田清流の会	11
山口県立大学しまプロジェクト／周防大島アイランダー	13

② 地 域 資 源 を 活 用 し た 経 済 活 動 の 促 進

山口大学生生活空間デザイン学研究室／下関市貴和の里に集う会	15
下関市立大学都市農村交流活性化研究G／長門市NPO法人ゆうゆうグリーン俵山	17
下関市立大学みんなのむらまち応援隊／長門市東後畑営農組合	19
山口県立大学企画デザイン研究室／長門市東後畑食育グループ	21
山口県立大学企画デザイン研究室／山口市徳地和紙振興協議会	23
宇部フロンティア大学げんき支援チームフロンティア／宇部市夢ゆめクラブきべの郷	25

③ 集 落 づ くり 支 援 (健 康 ・ 福 祉 づ くり 、 伝 承 行 事 の 継 承 等)

山口大学錦地域健康・安心サポーター／岩国市錦地域住民支援連携会議	27
岩国YMCA地域ふれあい会／岩国市天尾地域交流の里	29
山口大学嘉万の見守りを一緒に考える会／美祢市嘉万防犯灯の会	31
水産大学校村おこし会／下関市蓋井島自治会	33
山口大学やましろ地域応援サポーター／岩国市須万地親交会	35
山口県立大学文化人類学研究室／萩市彦六・又十郎伝説保存会	37
山口県立農業大学校社会活動グループ／美祢市赤郷地区ふるさとづくり協議会	39
山口大学剣道部／阿武町(農)うもれ木の郷	41

グループ概要

大学等名	山口県立大学 地福民(じふくみん)(構成:10名)
担当教員	齊藤理(山口県立大学文化創造学科准教授)
活動地域	山口県山口市阿東地福
活動期間	平成24年度～

受入組織の概要

「地福ほほえみの郷運営協議会」:地福ほほえみの郷構想による地域活性化の実現を図ることを目的に平成24年3月設立。地域の交流拠点兼店舗として「ほほえみの郷トイトイ」を経営。住民主体によるイベントなど各種企画により地域づくりへの参画意識を高める取り組みも実施。

取組の概要

【地域ニーズ】

集落点検活動による地域内の現状調査、地域経営の観点から、地域資源の調査及び活用方法の検討、地域内の課題、意見、要望等を地域住民が共有し、ディスカッションできる環境整備、地域経営について学ぶ学習グループの形成等。

【活動内容】

○平成24年度

①地域資源調査／②JR地福駅での「SLやまぐち号お出迎えプロジェクト」の試行／③地福地域一帯を「あそびば」としてPRする、「やまぐちあそびばプロジェクト」等の企画・運営。のべおよそ800名の地福への来訪者を記録。

○平成25年度

①「SLやまぐち号における地福地域の観光広報活動」=沿線自治体、JR西日本の協力を得て、大学生がSLやまぐち号に乗車し、袴姿での沿線ガイド、及び地福地域の観光マップ等配布。及び、地福駅ホーム上での記念撮影サポート。／

②地福駅における観光訴求活動の一環として、地域の皆さんとの共同制作で、地域特産物を使用したオリジナル弁当の企画・販売。限定数十個が即時完売。／③重要無形文化財「トイトイ」の伝統を持つ地福地域において、前年度に引き続き、「子供のまち」のイメージを創出し、「クリスマスナイトフェスティバル」において、お菓子の家づくりなど、数種の「あそびば企画」を展開。

これまでの活動成果等

平成24年～25年にかけてのおもな活動内容：

地福地域への交流人口増加のため、地域の方々と協働し、おもに以下の活動を実施。

1) 地福をPRする「オリジナルうちわ制作」、SLやまぐち号の乗客に配布＝地福地域の文化振興、観光促進に資する活動のひとつとして、PR用のうちわを作成し、300個をSLやまぐち号乗客に配布し好評をおさめた。

2) 「SLやまぐち号お出迎えイベント」＝学生スタッフが浴衣を着て、地福駅のホームでSLやまぐち号を出迎え。地域の方は太鼓演奏を披露し、地福の観光訴求のひとつのモデルを提起することができた。地域住民の動員数30名、学生スタッフ10名、乗客側の参加者数およそ300名。

3) 「やまぐちあそびばプロジェクト」＝トイトイの伝統を持つ地福地域において、「あそび」を中心としたイベントを計画。本件は、地域外の人にも、地福の人や歴史、文化など地域の良さを知らせていただくことにより、来訪者の増加を目指すもので、地福のまちじゅうを楽しい「あそびば」にし、子供から大人まで楽しめるのべ11種のプログラムを提供した。

地域の方と交流型の町探検やものづくり体験は、主役の子供たちだけでなく、地域の方々にも子供たちと交流する楽しさを味わっていただけたように思われる。またプラレールブースは非常に好評で、遠方の市からも訪れてくれたご家族もいた。総参加者数約600名。

平成25年度においては、クリスマス期に「あそびばプロジェクト」を試行。とりわけ、湯田温泉観光協会の協力を得て、湯田温泉地域にフライヤーを集中的に配布し、湯田温泉の宿泊客をターゲットとした「地福観光モデル」の可能性について実地に検証。今後の課題点を分析した。

4) 「地福駅における観光訴求活動」＝とくに、オリジナル弁当を企画・販売。



残された課題、今後の取組

これまでの成果をより発展させ、地福地域と山口県都市部との具体的な交流促進策を提言・試行し、持続可能な地域づくりをサポートしていきたい。とりわけ、発展可能性の大きいSLを軸とした観光発展の重要性について共通認識をもち、地福地域のほほえみの郷運営協議会等とより綿密に協議し推進していきたい。

グループ概要

大学等名	広島修道大学 三浦・富川ゼミ（構成：4名）
担当教員	三浦先生、富川先生
活動地域	萩市田万川地域
活動期間	平成25年度～

受入組織の概要

平山台果樹団地

取組の概要

【地域ニーズ】

「若者」「よそ者」の視点から地域の魅力を再発見。そしてそれを発信し、都市部の人を多く呼び込み、交流による地域活性化を図る。
最終的には田万川のファンを増やし、“もう一度来たい” “ここに住みたい”と思ってもらえるようなプランの作成、提案。

【活動内容】

○平成25年度

現地調査、視察 ワークショップ アンケート調査
発表

これまでの活動成果等

先月東京エコプロダクツに参加させてもらい、自分たちのプランを提示、発表した。
そこでもらったアドバイスをもとに、プランの修正をした。
3月に現地での発表があるので、そこで地域の方と話し合い、実現させれる方向にすすめていく。



残された課題、今後の取組

現地に行き、提案するプランの発表。アンケート調査や自分たちの案を報告。実現化させるために最終調整。

グループ概要

大学等名	山口県立大学 鹿野人(かのんちゅ)(構成:10名)
担当教員	齊藤理(山口県立大学文化創造学科准教授)
活動地域	山口県周南市鹿野
活動期間	平成23年度～

受入組織の概要

「鹿野ブランド創出研究会」:鹿野地域の都市農村交流を基軸とした観光開発を目指す。行政、商工会、民間団体、企業等分野を問わず、門戸開放型の団体として活動し、鹿野ならではの持続する地域づくりの構築を試みる。

取組の概要

【地域ニーズ】

既存イベントのグレードアップや地域資源を生かした新規体験メニューの充実など若者の感性を生かし、観光交流事業を進めたい。併せて地域情報を内外に発信し、鹿野地域への誘客の増大を図りたい。

【活動内容】

○平成23年度

①鹿野地域のカフェを中心とした「地域資源の調査」を実施／②外国人アーティストを招き、地域の皆さんとの「おみくじ」をテーマにしたワークショップ開催／③女性が食事や自然を楽しめる宿泊旅行「冬の女子会企画」の試行

○平成24年度

①山口市の中心商店街における鹿野のPR活動＝「青空マルシェ～鹿野からのおとどけもの、あります～」実施。のべ300人の参加者数。／②鹿野の中学生との交流会企画等を開催。

○平成25年度

①「鹿野茶」のプロモーション＝鹿野茶の収穫および空き店舗を利用した「鹿野茶喫茶」の実施。のべ150名参加／②山口市中心商店街における鹿野茶の無料配布、観光PR等を実施＝参加250名。／③「柿収穫」企画として、干し柿の制作、ならびに鹿野の中学生との交流イベント(「干し柿スイーツ」を共同制作)の開催

これまでの活動成果等

平成23年～25年にかけてのおもな活動内容：

1) 地域まち歩き参加や、渋川収穫祭等への参加

地域資源調査、地域の祭りへの参加。鹿野地形や歴史について地域の方々より実地に学ぶ。

2) 「女子旅」企画

平成23年、24年にかけて実施。大学生～30代女性をターゲットにした、1泊2日程度の女子旅を企画している。豊かな自然や歴史的な建造物など地域の魅力を知ってもらい、新しい層の観光客、リピーターを獲得することを目的とするもの。

3) 「青空マルシェ」(「青空マルシェ～鹿野からのおとどけもの、あります～」)企画

鹿野の特産品(わさび漬け等)を山口市中心部(道門商店街)にて販売する試みを実施。鹿野について意外に知らない方が多く、同地の観光資源を紹介するよい機会ともなった。300名程の来場者を記録。

4) 「となりの柿」企画 ～鹿野中学校交流会～

秋季に実施。鹿野地域にて、毎年たわわに実った渋柿が放置されているという事態を受け、大学生がそれらの収穫を手伝い、加工、活用法の研究や商品開発を行っている。「となりの柿」とは、近くの皆さんを助けたい、という想いから命名。柿は地域の中学生と交流しながらスイーツ制作。

5) 「鹿野茶」ブランディング企画。

歴史的にかなり古くから鹿野で栽培されていると言われる茶葉を採取し、「鹿野茶」としてブランディングを行っている。とくに平成25年7月下旬開催の鹿野地域でのイベント「鹿野市」のなかで、空き店舗を利用した浴衣喫茶を開催し、「鹿野茶」を広めることができた。来場者数およそ150名。



残された課題、今後の取組

助成事業終了後も、いくつかの発展性のある事業を企画・実施できるよう、持続可能な形(例えば、収益性のある形に)に企画案の精度を向上させるほか、引き続き地域との連携が図れるよう、ファンドを模索する。

グループ概要

大学等名	山口大学赤郷地域応援サポーター（構成：10名）
担当教員	朝水宗彦
活動地域	美祢市赤郷地域
活動期間	平成25年度～

受入組織の概要

赤間関街道WALK実行委員会（赤郷地域ふるさとづくり協議会の関連団体）

取組の概要

【地域ニーズ】

美祢市赤郷地域には歴史遺産や農産物（梨・ゴボウ）などの観光資源が多数存在する。ただし、少子高齢化の影響により、これらの資源を活用した地域活性化には人手が必要である。赤郷地域サポーターは平成25年度に設立され、赤間関街道WALKやフォトロゲイニングなど、イベント活動の補助を行っている。

【活動内容】

○平成25年度

フォトロゲイニングの運営補助（10月5日：4人）

赤間関街道WALKの準備作業（10月19日：4人）

ふれあいまつりの運営補助（11月10日：1人）

赤間関街道WALKの運営補助（11月16-17日：6人）

秋吉台火道づくりの補助（2月2日予定）

これまでの活動成果等

元々赤間が関街道WALKの補助活動を想定してボランティア学生の募集を行ったが、フォトゲイニングやふれあいまつりなど、他の活動にも学生が参加した。

イベント開催時の運営補助だけでなく、赤間が関街道を維持するための草刈りなど、地道な活動にも取り組んでいる。

赤間が関街道WALK関連の維持作業は春休み中にも開催されるので、引き続きボランティア活動を行いたい。



フォトゲイニング
(10月5日)



赤間が関街道WALK
(11月16-17日)

残された課題、今後の取組

夏休みや冬休みの間にもイベント補助の依頼があったが、長期休暇中はボランティア学生が十分集まらなかった。今年度の経験を踏まえ、通年的な活動計画を練り上げていきたい。

グループ概要

大学等名	徳山工業高等専門学校 中須北プロジェクトチーム(構成:15名)
担当教員	西尾幸一郎
活動地域	周南市中須北
活動期間	平成24年度～現在

受入組織の概要

【棚田清流の会】中須北地区は、すり鉢状に美しい棚田で結ばれているものの、住民の過疎化・高齢化が進み、周辺部から荒廃が進んでいる。これを打破するため「くらしの創造委員会」として活動を重ねた。そして、H13年にはこれを再編し、「棚田清流の会」を結成させた。「第6回 美の里づくりコンクール」(平成22年度)においては、『棚田清流の会』が最高賞の農林水産大臣賞を受賞した。

取組の概要

【地域ニーズ】

中須北地区では大変美しい棚田風景が広がる。この棚田風景を見るために地区外から足を運ぶ人は少ない。しかし、中須北地区は道が入り組んでおり、中須北の棚田の絶景ポイントまでたどり着くには案内が必要である。また、中須北地区では、棚田のフォトコンテストや地産物のブランド化など様々な活動を行っているが発信源となる拠点が無い。これらのことから、中須北地区の玄関口(案内口)、中須北の情報発信口となる案内所を設けるべく本活動を行う。

【活動内容】

○平成24年度

改修内容計画から地域住民への提案

- ・中須北についての資料集め、勉強会
- ・古民家改修事例の現地視察

(岡山倉敷市の古民家、山口県萩市の古民家、山口県防府市の古民家)

- ・中須北地区の概要把握と地元住民との意見交換の実施
- ・案内所となる再生予定の建物の実測調査
- ・改修後の予想図の作成

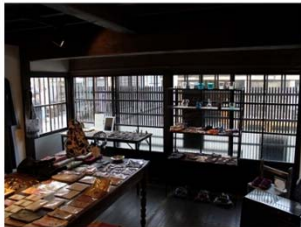
○平成25年度

改修提案段階から改修事業実施段階(DIY作業)

- ・清掃 ・瓦のペンキ塗り
- ・外部左官工事と窓枠サッシ塗装
- ・屋内左官工事 ・2階雨戸と戸袋の改修
- ・疑似ステンドグラス作成 ・床下の大引きと根太張
- ・地域住民と参加者の交流会BBQ

これまでの活動成果等

昨年度から学生十数名で、地域住民に対するヒアリング、古民家の実測調査、空き家の活用提案発表会を何度も重ねてきた。その結果、現在の空き家は地域の情報発信基地(道の駅のようなもの)に再生することが望ましいとの結論に達し、再生イメージ図を作成した。再生イメージ図を基にDIY作業に入った。



萩市古民家再生事例の視察



岡山古民家再生事例の視察



空き家現地調査



中須北地区の勉強会



地域住民に対する提案



改修後予想図



瓦のペンキ塗り



窓枠サッシ塗装



屋内左官工事



2階雨戸と戸袋の改修



疑似ステンドグラス作成



地域交流会

残された課題、今後の取組

今後は引き続きDIY作業に取り掛かっていく。DIY作業は床や壁などの内装工事が現在の段階であるが、今後は設置する家具や照明などの作成を行っていく。また、地域住民の全員の方にこの中須北プロジェクトの認知をしてもらい、協力を得るためにも定期的な交流の場が必要だと思われる。さらに、現在の参加者は徳山高専の学生が9割以上、山口大学の学生が1割程度となっており、多くの方に中須北の認知を広げるためにも、徳山高専の学生以外の参加者が多くなるように努力していきたい。

グループ概要

大学等名	山口県立大学 周防大島しまプロジェクト(構成:5名)
担当教員	吉澤茉帆
活動地域	周防大島町
活動期間	平成 25年度～

受入組織の概要

定住促進のための島人インタビューパンフレット作り

取組の概要

【地域ニーズ】

周防大島への移住者(Uターン、Iターン)を増やしたい。
特に島を元気づけてくれるような方を呼び込みたい。

【活動内容】

○平成 25年度

島の方にインタビューさせていただき、その内容を編集し、記事にしています。
すべて記事にした後、パンフレットとして形にしていく予定です。

これまでの活動成果等

これまで周防大島に在住の方々にインタビューをさせていただきました。その数はターン、Uターンの方、合わせて13人。内容は主に島での仕事、暮らし、これからの夢や目標です。ターンの方には島での仕事・暮らしを含め、地域にどう馴染んだのか、また今後島でどんなことをしていきたいかということをお聴きしました。Uターンの方には、島に帰ってきた理由や島のためにやりたいことも含めてお聴きしていただきました。

これらの取材内容を学生メンバーで編集し、記事にしているところです。



残された課題、今後の取組

これからは取材させて頂いたものをすべて記事にし、ご協力いただいている島の方に添削していただいた後、パンフレットとして形にしていく予定です。これまでの反省としてはインタビューの方へのアポイントメントを島の方にすべてお任せしてしまう形になったことです。そのため定住促進により相応しい人を選ぶということが出来ませんでした。またパンフレットを作るにあたって事前にもっと島(地域)のことを知る時間があれば良かったと感じています。今後は島の方とこまめに連絡を取り合い、作っていかうと考えています。

グループ概要

大学等名	山口大学生生活デザイン学研究室(構成:16名)
担当教員	牛島 朗
活動地域	下関市菊川町豊東地区(縦の木、道市、轡井)
活動期間	平成23年度～

受入組織の概要

『貴和の里につどう会』: 過疎・高齢化が進む地域の活性化と自然豊かな山村の資源を活用した、まちとの交流を目指して、平成19年に会を設立し、活動を続けている。

取組の概要

【地域ニーズ】

『貴和の里につどう会』は、繁茂竹林の伐採・整備や、耕作放棄地を再生して菜種の栽培、そばオーナー制度の取組み、空き民家を活用した田舎宿泊体験の取組み等、都市農村交流イベントに積極的に取り組んでいる団体である。

活動に際して、効果的な情報発信や交流イベントの円滑な運営を行うにあたって、定期的な活動の支援が求められており、農作業の補助に加え、建築・デザイン分野に関する専門的な知識を活用した支援に取り組んでいる。

【活動内容】

○平成23年度

耕作放棄地を活用した都市農村交流活動や田舎宿泊体験施設の整備に係る支援

- 宿泊体験施設の空間デザインと改修
- 都市農村交流イベント等の支援
- 集落外に向けた情報発信・PR活動の支援

○平成24年度

田舎体験イベントや地域に繁茂する竹を有効活用する取組など、地域おこし活動の推進に係る支援

- 都市農村交流イベント等の支援
- 集落外に向けた情報発信・PR活動の支援

○平成25年度

田舎体験イベントや地域に繁茂する竹を有効活用する取組など、地域おこし活動の推進に係る支援

- 耕作放棄地を活用した都市農村交流イベント(田植え、稲刈り等)のサポート
- 繁茂竹林の整備補助に加え、伐採した竹を活用した竹炭材づくりと炭焼きの実施
- パンフレットやポスター制作等、貴和の里のPR活動
- 小学生を対象とした田舎体験イベントの共同開催(今年度は、雨天のため中止)

これまでの活動成果等

これまで3年間の活動を通じて、継続した都市農村交流活動や田舎宿泊体験施設の整備等の取り組みに取り組んでおり、活動団体だけでなく地域住民との協力体制を確立している。

また、空間デザインの専門家として、スキルを活用し、地域拠点施設の整備に取り組み、現在の活動に際して、有効に活用されている。

これまで、多くの地域での活動機会を得たことで、参加学生にとっても様々な体験の場となっている。その中で、大学教育だけでは経験出来ない多様なフィールドワークの場として、貴重な教育の機会となっている。

さらに、多くの中山間地を抱える山口県内での活動を通じて、地域の活力創出に向けた重要な知見を得るとともに、新たな課題の発見も合わせて行っている。



残された課題、今後の取組

近年の様々な天災により、今年度は予定をしていた交流活動の機会が失われることが多くあった。今後も見込まれるこうした災害に対して、新たな交流体制の確立と継続した活動機会の創出を合わせて検討する必要がある。

また、既存の活動もさらに充実させ、より活発な都市農村交流の機会を実施していくための方法論の確立も合わせて取り組みを行っていく。

グループ概要

大学等名

下関市立大学都市農村交流活性化研究グループ
(構成：15名)

担当教員

吉津 直樹 横山 順子

活動地域

長門市俵山

活動期間

平成23年度～平成25年度

受入組織の概要

俵山地域の活性化に力を入れているゆうゆうグリーン俵山及び俵山温泉合名会社。ゆうゆうグリーン俵山は、農作業体験や地域文化の体験等を通して、外部に地域の状況を発信している。また、俵山温泉は昔からリウマチに効く名湯として名高い。しかし、最近では以前に比べて民宿の数が減少している。

取組の概要

【地域ニーズ】

交流人口の拡大や定住者促進を目指し、農作業体験等の体験型プログラムを実施しており、活動支援を行う学生を必要としている。また、季節ごとに祭りを開催しており、その際にも若者の力を求めている。また、俵山温泉では客層の拡大を目指しており、学生による広報活動を期待している。

【活動内容】

○平成23年度

農作業体験や伝統的文化体験等の活動支援や、田植えや稲刈り等の農作業支援を行った。また、現地調査や地域住民との交流会に力を入れた。

○平成24年度

窯でのピザ作り体験やブルーベリーの植え付けの支援を行った。温泉の広報活動をするために、現地調査や俵山温泉合名会社との会議を基に、学生による俵山温泉応援隊を結成した。また、一位ヶ岳登山ための案内マップを作成した。

○平成25年度

蛸祭りやドウゲン養成講座の支援と田植えや稲刈り等の農作業支援を行った。また、前年度に作成した登山案内マップの利用状況を調査した。また、3月までにかけての取り組みとして、前年度で取り組んだ一位ヶ岳に登山を行う子ども達の登山支援を行う。そして俵山温泉街では、ウェルネスツーリズムプログラム策定にむけた温泉地区のマップ作りを行う。

これまでの活動成果等

学生は、農作業や地域活動の支援に初めて取り組む中で、回を重ねるごとに自ら考えて物事に取り組む姿勢や、地域住民とコミュニケーションをとる方法を掴んできているように感じている。その中から、地域インターンシップに参加した学生もおり、地域活動やグリーンツーリズム・中山間地域についての関心がさらに深まっている。

農作業体験や地域文化体験の支援・交流会等を行っていく中で、地域住民との距離が少しずつ縮まり、案内マップの作成を任されることにつながった。また、俵山温泉合名会社と共に温泉街を盛り上げる取り組みにもつながっている。

俵山温泉については、各民宿や温泉街周辺を調査し、学生達による地域資源の再発見を行った。その地域資源の情報を発信していくことで、利用客を増やしていきたいと考え、俵山温泉応援隊を結成した。



残された課題、今後の取組

今後も、農業体験や地域文化体験の支援を引き続き行っていく中で、学生による新たな体験プログラムを提案していきたいと考えている。そのためにも、今まで以上に地域住民との交流や親睦を深めていく。

俵山温泉応援隊は、広報活動や情報発信のツールを増やしていき、若い世代を中心とした様々な年代に届くような取り組みを行う。

案内マップについては、今後も利用状況を調査する。

グループ概要

大学等名	下関市立大学みんなのむらまち応援隊(構成:11名)
担当教職員	横山順子
活動地域	長門市油谷後畑
活動期間	平成23年度～平成25年度

受入組織の概要

西日本最大級である棚田地域の保全活動を行っている東後畑営農組合。後継者不足や農業従事者の高齢化により、将来的な棚田保全活動に不安を感じており、交流人口の拡大や定住者促進等を望んでいる。

取組の概要

【地域ニーズ】

交流人口の拡大や定住者促進を望んでいる。大学生との交流をきっかけとして、若者が地域に訪れる機会を増やし、外部に棚田や地域についての情報を発信していきたいと考えている。また、地域をさらにPRするために体験型のプログラム作りを望む声もある。

【活動内容】

○平成23年度

防除作業や野焼き等の農作業支援を行う傍ら、地域の現状を調査していた。また、地域住民と親睦を深めるために交流会を開催した。年度末には、報告会と今後の活動についての話し合いを行った。

○平成24年度

平成23年度の調査や交流会を基に、観光案内マップ作りや特産物作りを進めた。農作業支援や交流会も引き続き行い、宇津賀多目的交流館の除草作業等も行った。また、地域住民の方々と野焼きのための事前草刈りと野焼き作業を協働で行った。年度末には、報告会と今後の活動についての話し合いを行った。

○平成25年度

棚田米を使用したゴパンを試作し、「農業スタイルコレクション2013 in 長門油谷 with 会津若松」(ラポール油谷の会場内で試食会を行った。また、東後畑の棚田展望台周辺の清掃活動を地域住民と共に行った。さらに、空き家となっていた古民家を活用するために清掃を行い、活用方法について話し合った。

これまでの活動成果等

農作業支援については、参加している学生のほとんどが初めての体験だったため、当初はぎこちなかったが、回を重ねていく中で徐々にではあるが上達しているように思う。仕事内容に関しても、少しずつ信頼してもらい柵田周辺の清掃活動や宇津賀多目的の除草作業等を任せて貰えるようになった。

地域住民との信頼関係は、当初は何をするにしても距離を感じていたが、農作業支援や地域活性化に対して真摯に取り組む姿や、交流会を開催して少しでも距離を縮める努力を行う中で、徐々にではあるが打ち解けることができたと感じている。

交流会や話し合いを通して実現したことは、“観光案内マップ”や“柵田米を使用したごぼん”の試作・試食や柵田展望台周辺の清掃がある。

観光案内マップについては、柵田展望台に訪れた観光客や地域住民の意見を参考に作成した。“ごぼん”は、地域のものを使った特産物を作りたいという声を元に考案した。

また、柵田展望台周辺の清掃に関しては、観光客が多く訪れる時期に清掃を計画し、農村景観のすばらしさを実感してもらい、リピータとして何度も訪れて欲しいといった意見から始めた。



残された課題、今後の取組

農作業支援については、回数や支援に携わる学生をさらに増やしていけるように、広報活動に力を入れる。

地域住民との信頼関係については、定期的な交流会を開催していく中で、意見交換を行っていく、体験型プログラム作り等につなげていく。

観光案内マップは、観光客にアンケート等を実施し、利用状況を把握する。柵田米を使った“ごぼん”は、計画段階の古民家を活用した農産物直売所での販売を視野に入れている。

また、柵田を活用した小水力発電の研究開発は、今後の大きな課題として取り組んでいきたい。

グループ概要

大学等名	山口県立大学企画デザイン研究室(構成:11名)
担当教員	水谷由美子
活動地域	長門市油谷
活動期間	平成25年度～

受入組織の概要

東後畑食育グループ(長門市油谷)

取組の概要

【地域ニーズ】

山口県長門市油谷東後畑地区…棚田 100 選にも選ばれている西日本最大級の棚田地帯。見物客、カメラマンが多数訪問する。しかし課題が2つ。

(1)観光面→飲食店や土産屋などがない (2)棚田保全面→高齢化、過疎化の進行

【活動内容】

○平成25年度6月29日(活動場所:ラポールゆや および 東後畑地区の棚田)

ファーストミーティング

ラポールゆやにて東後畑地区住民の方から棚田についてのお話を伺い、今後の研究の方針など話し合った。また、実際に棚田を見に行き、NPO法人英田上山棚田団の方との意見交流会も行った。

→その後ミーティングを重ねる

○平成25年度10月13日(活動場所:ラポールゆや)

「農業スタイルコレクション2013」

若者に地域や農業への感心が持たれるような新しい農業ファッションをファッションショー形式で発表。

ラポールゆやのロビーでは油谷で作られている自然栽培米のパッケージデザインを提案し、実際にお米を販売した。また、棚田カフェ「bio café」を計画し、ユニフォームも発表した。

○平成25年度11月24日(活動場所:旧文洋小学校)

宇津賀ふるさと祭り

積極的に地域の人やものに触れることでアピールに繋がると考え、祭りのカフェコーナーで「bio café」ユニフォームが地元のスタッフに着用された。

○平成25年度12月13日～15日(活動場所:山口県立美術館)

カフェ計画展示

当研究室が開催した「クリスマスクリエイション2013」において、棚田カフェ「bio café」の空間をデザイン。また油谷の自然栽培米を使用した米粉パンのパッケージデザイン、さらにそのサンプルを制作した。

これまでの活動成果等



地域の問題や課題解決はただアイデアを出すのではなくその地域の資源を土台に考えることが大事だと感じた。そうすることで地域住民に親しみやすいものとなり、まずは地域の人々の関心度、次に地域外の人々の関心度があがる。実際に新しい農業ファッションについては「商品化してほしい」という声が多く寄せられた。自然栽培米や米粉パンのパッケージについては、「今までにない色使いが面白い」という声があった。



残された課題、今後の取組

今後は今回提案した農業ファッションを地域の方に実際に着てもらい、農業の仕事をした感想・意見を取り入れ、商品化に向けて発展させることが課題になるだろう。また自然栽培米やそれを使用した米粉パンのパッケージについても幅広い層の意見を取り入れることが大切だ。この研究はアイデアを提案して終了、ではなく、アイデアが地域の自発的行動に継承、発展されることで地域ブランディングが実現されるだろう。

グループ概要

大学等名	山口県立大学企画デザイン研究室(構成:6名)
担当教員	水谷由美子
活動地域	山口市徳地
活動期間	平成25年度～

受入組織の概要

徳地和紙振興協議会

取組の概要

【地域ニーズ】

山口県山口市徳地地域は大内時代から和紙漉きが盛んであった。しかし、時代の流れとともに衰退。今では産業として行っているのは2軒のみとなってしまった。

そこで、手漉き和紙の文化を末永く発展させていく為に、三楯生産の活性化や、和紙を使った商品開発を行っていききたい。

【活動内容】

○平成25年度7月5・6日(活動場所:アウリンコ・徳地・タロ および 重源の里、徳地総合支所前)

「和紙作家ロギール・アウテンボーガルトによる 徳地和紙活性化に向けたプレゼンテーションとワークショップ」

高知県で活躍するロギール・アウテンボーガルト氏によるプレゼンテーションとワークショップを開催した。著名な活動をされている作家のプレゼンテーションとワークショップを通じて、徳地の住民が和紙造形の魅力を再認識するとともに、和紙表現の可能性を理解する機会の創出を目的とした。そして、徳地観光協会、地元の手芸、和紙作家など違うフィールドで活動する住民たちを結びつける役割を期待した。

⇒その後もワークショップ作品の制作作業を続けた。

○平成25年度10月27日(活動場所:アウリンコ・徳地・タロ および 交番前浴道)

「ロギール・アウテンボーガルトのワークショップ作品展+徳地から和紙アートを発信」

ワークショップ作品「21世紀希望のトーチ TOKUJIWASHI&LIGHT」、三楯×重源の里の植物による手漉き和紙作品「手漉きで紡ぐ徳地の伝統と自然」、地元小中学生が制作した竹灯籠和紙影絵アートの展示を行った。(平成25年8月31日に予定されていた「徳地2013 生活を彩る和紙アートの祭典」が台風により中止になった為、延期された。)

○平成25年度12月14日(活動場所:山口県立美術館)

「Christmas Creation 2013」

山口県立大学が主催し、当研究室が運営するクリスマスファッションショーにて徳地手漉き和紙を使用した作品を発表。

これまでの活動成果等

楽しそうに紙を漉いていたり、和紙に光が灯るのを見て「いいわね」と話す人たちは和紙のよさを再認識したようだった。更に、大人数で制作することによって、ひとりでは味わえない高揚感や満足感を得られているように感じた。これをきっかけに、人と一緒になってもものづくりをする楽しさを知ってもらえたら幸いだ。

地域の有志グループと学生との共同制作は、両者の距離を縮め、多くの感動を共有できた。いくつもの感動を共有することで信頼関係が生まれる。その信頼関係こそが、まちづくりの基本になると感じた。



残された課題、今後の取組

今回のフィールドであった徳地地域では、いくつもの団体が、個別に活動している印象を受けた。しかし、地域全体のつながりはしっかりとあり、なおかつデザインに興味のある方が多くいるため、全体で動いていこうという流れになれば大きな躍進を遂げると感じた。

今後は商品開発の更なる具体化と、三極を畑から作っていく事により、後継者の育成や景観作りを行っていく。和紙そのものだけでなく、和紙を取り囲む多くの課題を解決していく。

グループ概要

大学等名	宇部フロンティア大学 げんき支援！チームフロンティア(構成:9名)
担当教員	伊藤 一統
活動地域	宇部市吉部地区
活動期間	平成25年度

受入組織の概要

夢ゆめクラブ吉部の郷・・・宇部市北部吉部地区において、高齢化・過疎化の進行に危機感を抱いた住民が作りあげた「吉部の夢プラン」の実行団体。平成25年6月現在の会員は31名。地域のペースで住民主体による活動を行っている。

取組の概要

【地域ニーズ】

地域団体「夢ゆめクラブ吉部の郷」が実行する「吉部の夢プラン」の実現に向けて、地域で取り組まれている様々な活動を学生が年間を通じて全般的に支援することで取り組みの幅を広げ、より活性化させることを目的とする。

【活動内容】

○平成25年度

①ほたるまつり開催支援

オープニングセレモニーにおいてよさこい舞踊の披露、バザー運営支援を行った。

②旧船木鉄道 鉄道敷跡整備支援

地域資源である旧船木鉄道の鉄道敷跡に繁茂している草や竹の伐採を支援した。
作業終了後、参加者に対して慰労会を開催した。

③くすのきカントリーマラソンにおいてバザー運営(予定)

くすのきカントリーマラソン会場において「夢ゆめクラブ吉部の郷」のPR活動も兼ねたバザー運営を行う。

これまでの活動成果等

平成24年度山口県中山間地域若者元気創出支援活動の助成を受け下記の活動を実施した。

①ほたるまつり開催支援

平成24年6月実施のほたるまつりオープニングセレモニーにおいてよさこい舞踊の披露やバザー運営の支援を実施。

②旧船木鉄道廃トンネル整備支援

廃トンネルにおける排水溝整備事業の支援及び作業終了後の住民慰労会の開催。

③くすのきカントリーマラソンにおけるバザー運営による夢ゆめクラブ吉部の郷のPR活動

くすのきカントリーマラソン実施会場において地域団体「夢ゆめクラブ吉部の郷」のPRを兼ねたバザー運営(綿菓子の販売)を実施。

④「おいでませ吉部 清流まつり」開催支援

平成24年8月実施の「おいでませ吉部 清流まつり」(そうめん流し)オープニングセレモニーにおいてよさこい舞踊の披露や会場でのバザー運営を実施。

⑤植樹作業支援

「吉部千本桜計画」における桜の植樹作業の支援及び作業終了後のカレーの炊出しを実施。



残された課題、今後の取組

課題は活動参加者数の増加。

今後も同様に地元住民と協働で中山間地域の活性化をはかっていく。

グループ概要

大学等名	山口大学、山口コ・メディカル学院、 防府看護専門学校 錦地域健康・安心サポーター（構成：25名）
担当教員	長谷 亮佑
活動地域	岩国市錦地域
活動期間	平成24年度～

受入組織の概要

受入組織である錦地域住民支援連携会議（にしき安心サポートチーム）は、錦総合支所地域振興課、市民福祉課、岩国市健康推進課、介護保険課、錦中央病院、錦地域包括支援センター、社会福祉協議会錦支部、錦福祉会、NPO法人ほっとにしき、NPO法人山口ヘルスプロモーションネットワークをメンバーとし、調査など科学的評価に基づき、連携して、錦地域住民の生活および健康を支援することを目的にした組織である。

取組の概要

【地域ニーズ】

少子高齢化が進み、高齢化率が50%を超える岩国市錦地域では、生活や健康に対する不安が高まっており、住民が健康に、安心して生活できるための支援が必要である。住民は、家に来て話をしてくれる人を欲し、若者との交流を希望している。

【活動内容】

平成24年度（「錦町宇佐地区と交流グループ」として）

錦地域宇佐地区で2回の健康相談会を開催した。宇佐地区助け合い組織の方々と一緒に各世帯を回り、アンケート調査を実施した。結果をまとめ、住民の方々に報告をし、宇佐地区の今後について話し合った。このときの「住民が集まって一緒に食事をする機会を持とう」という意見から、25年4月にお花見会が開催された。住民の半数近くが参加し、学生と一緒に食事を作って食べ、レクリエーションを楽しんだ。

平成25年度

24年度の宇佐地区での活動を、錦地域の他地区に拡大することを目指した。

毎月開かれる錦地域住民支援連携会議に出席した。25年度は大原地区と広瀬商店街地区をモデル地区とした。大原地区では10～11月にアンケート調査による現状把握を行い、住民の方々に結果報告をするともに、住民、錦地域住民支援連携会議メンバー、学生がグループワークを行い、課題を抽出した（広瀬商店街地区は、26年1月23日から約1ヶ月間の予定で調査を実施し、25年度内に住民集会を開催予定である）。

また、広瀬地区、大野地区、向峠地区のサロンを訪問し、生活習慣にちなんだクイズや手や頭を使うゲームで楽しみながら、健康情報を伝えた。

26年3月には、錦地域住民支援連携会議と錦地域健康・安心サポーターの取り組みを周知し、錦全域の住民の方々と一緒に地域を考えるため、第2回にしきの支え合いを考える集いを開催する。

これまでの活動成果等

アンケート調査に答え、結果を聞き、現状を知ることで、住民の方々が自分達の生活や健康のことを考えるきっかけとなっている。その中で、学生は、錦地域住民支援連携会議で実施が決定されたアンケート調査の調査員や住民集会の発表者、グループリーダーを担っており、実働部隊として機能している。

全戸訪問によるアンケート調査で、若者とのおしゃべりを楽しむ住民の方が多い。地域づくりに対する意識の高まりと共に、学生との再会が楽しみとなり、調査前に比べ、調査後に開く集まりは参加者が増える傾向を認める。

1軒1軒訪ねて回る地区は24年度1カ所、25年度2ヶ所と限られるが、サロン訪問などを行うことにより、他地区の方々にも学生との出会いを楽しんでいただくことができている。さらに、にしきの支え合いを考える集いの開催で、錦全域の住民の方々と交流することができる。



残された課題、今後の取組

アンケートで明らかになり、住民集会で課題として認識された問題に対し、実際にどう取り組むのか、そして、成果を上げることができるのかが今後は問われる。

これまで宇佐、大原、広瀬商店街で行ってきた取り組みが、他地区さらには錦地域の外にも広がることが期待される。

グループ概要

大学等名	岩国YMCA国際医療福祉専門学校地域ふれあい会 (構成:43名)
担当教員	江見、岡崎
活動地域	岩国市北河内
活動期間	平成 24 年度～

受入組織の概要

岩国市北河内「地域交流の里」代表新庄菊子 「山里を活かした体験」「歴史文化を活かした体験」等の活動を中心に地域の活性化を目指す。

取組の概要

【地域ニーズ】

初年度:地域の行事へボランティアとして参加してほしい。

【活動内容】

○平成24年度

サロン(クリスマス会)

血圧チェック、体脂肪率等からだチェック

○平成25年度

二鹿地区支援活動:高齢者訪問活動 25人

訪問結果報告

これまでの活動成果等

初年度(H24)前半は地域で行われるイベントへ参加し地域の方々と交流を図ることで「地域ふれあい会」を認知していただいた。後半は「地域サロン」に参加し、高齢者への健康支援を目的に健康チェック・健康体操を行った。

H25年には、地域の高齢者のニーズ把握を目的に二鹿地区の民生委員や福祉委員に同行いただき学生が高齢者宅を戸別訪問しインタビューを行った。地域在住の高齢者のお話から、地域の現状や要望を把握することができた。「若い人の地域への参加が少なく交流が図れていない」「介護保険制度の仕組みが分からない」「血压について知りたい」等、具体的な意見を把握することができた。



残された課題、今後の取組

1. 地域の既存のサロンに参加し健康チェック、健康体操の指導等をとおして健康づくりのお手伝いをする。
2. 地域の方と相談しながらニーズに合った支援を検討し実施する。

グループ概要

大学等名	山口大学、防府看護専門学校 嘉万の見守りを一緒に考える会(構成:10名)
担当教員	長谷 亮佑
活動地域	美祢市秋芳町嘉万地区
活動期間	平成25年度～

受入組織の概要

美祢市秋芳町嘉万地区の防犯灯を共同管理する10区の区長で構成される嘉万防犯灯の会が受入組織である。嘉万防犯灯の会は、大分県国東市の「黄色い旗運動」を参考に、嘉万地区版黄色い旗運動を導入し、住民お互いによる見守りのシステムを構築したいと考えている。

取組の概要

【地域ニーズ】

美祢市秋芳町嘉万地区は、少子高齢化が進み、高齢者独居世帯が増加傾向にある。明るく、安全・安心なまちづくりのため、嘉万地区版黄色い旗運動による高齢者見守り体制の構築を目指している。

また、少子高齢化により地区の祭や行事の存続が難しくなりつつあり、運営の支援や、神輿や余興での盛り上げのために学生の参加が期待されている。

【活動内容】

平成25年度

7月から毎回、嘉万防犯灯の会の会合に参加し、嘉万地区版黄色い旗運動の導入に向け、議論を重ねた。8月には、美祢東地域包括支援センターおよび美祢市社会福祉協議会秋芳地域福祉センターの担当者の方々と協議を行い、集落支援事業について説明する一方、嘉万地区を含む秋芳町での包括、社協の取り組みをお聞きし、今後の連携を話し合った。

8月21日の嘉万地区の夏祭りである嘉万風鎮祭に参加した。地元住民と一緒に山車を引いたり、福引スタッフを担当したりするなど、地元の方々と共に祭を盛り上げ、楽しんだ。

11月に、下市区をモデル地区とし、先行して嘉万地区版黄色い旗運動を導入することが決まった。1月に下市区の住民の方々を対象としたアンケート調査を実施した。聞き取り調査とし、地元関係者の案内を受けながら、学生が各世帯を訪ねて回った。

1月16日、嘉万地区住民と学生および関係者の総勢23名で、黄色い旗運動の視察目的で大分県国東市を訪れた。国東市社会福祉協議会で事業説明を受け、実施地域の見学を行った。

1月末、下市区の住民に、アンケート調査結果と国東市視察の報告を行い、下市区での黄色い旗運動の導入について話し合った。

これまでの活動成果等

まず、嘉万防犯灯の会の会合に出席し、地元の祭りに参加することで、地区の代表者、地域関係者および住民の方々に、集落支援事業で学生と共に地域づくりに取り組むことを周知でき、信頼関係の土台を築くことができた。

嘉万防犯灯の会との会合を重ね、両者が嘉万地区版黄色い旗運動の導入について熱心に議論をしたことで、地区全体で始めるのではなく、まずは下市区で試験的に導入し、その後他区に拡大するという戦略が立った。

下市区の住民にアンケート調査を実施したことで、地域の見守りに対する意識や行動といった現状を把握することができた。この調査結果は黄色い旗運動導入前の基礎データであり、今後、導入後の調査を実施すれば導入前後の比較が可能となる。また、学生がアンケート調査で各世帯を訪ねた際、長くおしゃべりしたり、お土産をいただいたりしており、多くの住民の方々に若者の訪問を喜んでいただけたのではないかとと思われる。

大分県国東市に黄色い旗運動の視察に行き、現地の関係者および住民の方から直接お話を聞くことで、その効果や課題を知ることができた。視察参加者の嘉万地区版黄色い旗運動の導入に向けた意欲が高まったと感じられた。なお、この視察をきっかけに、先進地である国東市と今後も情報交換ができる関係が築けた。

下市区の住民に、アンケート調査結果と国東市視察の報告を行い、下市区ではどのように黄色い旗運動を導入するのかを議論したことで、自分達が主体の地域づくりが動き始めた。



残された課題、今後の取組

まずは、近いうち(できれば今年度中)に、下市区での嘉万地区版黄色い旗運動を開始する。半年後を目処に導入後の評価を行い、明らかになった問題点を改善するなどして、よりよい形で継続する。また、下市区から他区への嘉万地区版黄色い旗運動の拡大を進める。

さらに、今後、買物や病院受診など、高齢化の進行に伴う問題がさらに増えてくると予想され、そのような課題にも、黄色い旗運動で築かれた住民同士のつながりでも対応できる地域づくりを目指す。

グループ概要

大学等名	水産大学校（構成：約 15名）
担当教員	副島久実・岸上光弘
活動地域	蓋井島
活動期間	平成23年度～

受入組織の概要

蓋井島は、下関市吉母の北西約6kmの響灘に浮かぶ漁業が中心の離島であり、39世帯、98名が暮らしている。蓋井島自治会は、島唯一の自治会であり、島民の暮らしを支える活動を実施している。

取組の概要

【地域ニーズ】

元気で魅力ある島づくりの実現に向けて、大学生と次の活動を実施。

- ①島民と学生のコラボレーションによる特産品づくり
- ②大学生等に対する民芸品の制作体験の開催
- ③島の伝統行事や年間行事への参加支援
- ④海岸清掃活動への参加等、島内行事への参加・協力を通じ、新たな島の魅力の発掘と発信に繋げる

【活動内容】

	①商品開発	②体験・交流	③伝統・文化	④情報発信等
H23	<ul style="list-style-type: none"> ○島の伝統的郷土料理の再発掘や未利用魚の活用に向けた検討を実施 ○大学祭で試作品のマーケティング調査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○島民から貝類やエミューの羽などを利用した民芸品の制作指導を受ける ○地域活動の活性化を図るため、離島体験ツアーを企画（悪天候のため開催直前に中止） 	<ul style="list-style-type: none"> ○島民とともに、島の観光資源である「エミュー牧場」の柵を修復を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学祭で島の伝統料理の試作品のマーケティング調査を実施 ○大学祭で民芸品の制作体験の開催を通じて、島のPRを実施
H24	—	<ul style="list-style-type: none"> ○島の大運動会の準備と当日、祭後の後片付けに参加 ○島内外の子供達の交流機会の創出を目的にサッカー大会を企画・開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○6年に一度開催される山の神神事に参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学祭で島のサザエを使ったサザエ飯の試食とアンケート実施 ○カモンFMにおける島情報の発信
H25	—	<ul style="list-style-type: none"> ○島の大運動会の準備と当日、祭後の後片付けに参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○島の伝統的郷土料理を学ぶ ○島を散策し、地域資源の掘り起こしを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学祭で島のサザエを使ったサザエ飯の試食とアンケート実施 ○カモンFMにおける島情報の発信 ○事業中間報告会の実施

これまでの活動成果等

- 本事業を実施する中で、学生が何度も島を訪問し、島民との話し合い等を積み重ねることにより、島民と学生との間に信頼関係が出来つつあるとともに、若者等との交流の受け皿づくりが進んでいる。
- 地域ニーズがありながら、着手できなかった特産物(水産加工品)の製造を試行するきっかけができるなど、島おこしに向けた具体的な活動につながっている。
- 水産大学校での大学祭への「蓋井島コーナー」の出店により、他の学生や一般市民に対する蓋井島のPRにつながったと考えられる。
- 学生にとっても、地域づくりの難しさを実感する機会となり、机上の学習でしか学べなかった地域活性化の取組を実体験として学ぶことができ、かつ自治体の事業(県民の税金)を任せている責任を感じながら取り組むことができた。



残された課題、今後の取組

- 企画内容を実施するにあたっての話し合いにおいては、島民と学生とが協同して取り組むことができた。しかし、実際の企画開催日においては、島民がなかなか活動に参加できないという状況であった。いかに多くの島民を巻き込みながら、地域活動を展開させるかが、課題である。
- 大学祭アンケートでは島へ行ってみたいという意向はあるものの、島民によって、都市住民等との交流事業に対する意識の差があり、現時点では、島を挙げての取組となっていない。
- 島民が継続的に学生との交流事業を継続させるとともに、研修会や勉強会を実施して、商品開発の手法や交流事業の重要性を学ぶことが必要である。

グループ概要

大学等名	山口大学やましろ地域応援サポーター(構成:14名)
担当教員	朝水宗彦
活動地域	岩国市錦町
活動期間	平成23年度～

受入組織の概要

岩国市錦町須万地親交会(広瀬八幡宮の秋祭りである「もみやま」の参加実施地区の団体)

取組の概要

【地域ニーズ】

少子高齢化と市町村合併の影響により、地域の活性化のため「ほっとにしき」などのNPO団体が設立される。活性化の一環として、体験型修学旅行生の受け入れを積極的に行うようになり、「やましろ体験交流協議会」などが設立される。山口大学やましろ地域応援サポーターは平成23年度から修学旅行生の受け入れの手伝いを行って来たが、その縁で平成24年度からは伝統行事や地元のイベントの手伝いを行っている。

【活動内容】

○平成23年度

体験型修学旅行生の受け入れ補助
体験型修学旅行用のDVDやパンフレットの作成

○平成24年度

体験型修学旅行生の受け入れ補助
もみやまの手伝い
にしきふるさとまつりの手伝い

○平成25年度

にしきふるさとまつりの手伝い

これまでの活動成果等

平成23年度に作成したDVDやパンフレットは翌年度の体験型修学旅行生の受け入れ拡大(300人)に大きく貢献したかと思われる。

山口大学の学内にて毎年学生の活動報告会を行っており、学生自主活動ルームなどを通してボランティア学生の参加者の増大と活動の継続化にも組織的に取り組んでいる。

平成24年度からは「もみやま」や「にしきふるさとまつり」などの地元行事にも参加するようになり、活動の多角化も試みている。



DVDの撮影
(平成23年10月)



修学旅行生による
野生動物の保護活動
(平成24年10月)



ふるさとまつり会場下見
(平成25年11月)

残された課題、今後の取組

今年度は活動期間中に体験型修学旅行が実施されず、もみやまも担ぎ手不足のため中止になったので、ふるさとまつりのみの参加になった。昨年度より活動が少なかったため、来年度の活動に向けて、活動時期と活動内容について地元の方々につめていきたい。

グループ概要

大学等名	山口県立大学国際文化学部 文化人類学研究室 (構成:6名)
担当教員	安野早己
活動地域	萩市 明木
活動期間	平成25年度7月2日～12月30日

受入組織の概要

彦六・又十郎の伝承活動を通じて、地域を思いやる心を育み、心豊かな人づくりと地域交流を推進している「彦六・又十郎伝保存会」

取組の概要

【地域ニーズ】

2013年11月30日に行われる「彦六・又十郎四百年祭」の準備・運営に学生の協力を求める。

【活動内容】

○平成 25 年度 7月2日～12月30日

- ・彦六・又十郎の案内板の防腐剤塗り、ペンキ塗りかえ
- ・四百年祭のチラシの作成
- ・彦六道の道標の設置
- ・明木七観音・八景を実際に探訪して撮影
- ・明木七観音の御詠歌学習
- ・明木の特産品を使った「食べるラー油」開発
- ・四百年祭前日の会場設営、
- ・四百年祭当日の受付ならびに、「明木探訪」のプレゼンテーション

これまでの活動成果等

- ・四百年祭に多くの人々が来られて、成功に終わった。
- ・一部の人にしか試食していただけなかったかが、「食べるラー油」は好評だった。
- ・地元の人々が、再び地元の歴史や伝統に関心が持てるようなプレゼンテーションができた。
- ・御詠歌学習を通して、地域の伝統を残そうとする地域の姿に感銘を受けた。
- ・ペンキ塗りなど、ボランティアの楽しさを実感できた。



残された課題、今後の取組

- ・個々の活動において前もって準備を行わずに参加してしまった。
- ・時間に余裕をもって行動できなかった。
- ・保存会の役員以外の地元の方々と触れ合う機会が少なかった。
- ・特産品を活かした「ラー油」を作ったが、そのことを地元の方々に伝えきれなかった。

グループ概要

大学等名	県立農業大学校社会活動グループ(構成:10名)
担当教員	齊藤 昌彦
活動地域	美祢市美東町赤郷
活動期間	平成25年度～

受入組織の概要

美祢市の赤郷地域ふるさとづくり協議会(以下、協議会)は、秋吉台里山文化を再び隆盛させるために、秋吉台上で地域住民一体となり、さまざまな活動を行ってこられています。特にドリーネ文化の復興としてドリーネ畑の活用と維持管理を行われています。

取組の概要

【地域ニーズ】

ドリーネ畑再生に向けて、以下の取り組みが求められています。

○ドリーネ畑の活用

- ・畑づくり
- ・畑管理

○ドリーネ畑の維持・管理

- ・火道づくり

【活動内容】

○平成25年度

今年度の活動予定。

12月8日(実施済み)

○ドリーネ畑の維持・管理

- ・火道づくり

○ドリーネ畑の活用

2月2日(予定)

○ドリーネ畑の維持・管理

- ・火道づくり

○ドリーネ畑の活用

2月16日(予定)

○ドリーネ畑の維持・管理

- ・山焼き火入れ

これまでの活動成果等

平成25年12月8日

火道づくりのサポートを行いました。

当日は、学生5名と参加しました。

学生は、日頃から草刈機等を使用していますが、慣れないドリーネでの作業で最初は戸惑っていましたが、慣れてくると他の参加者と協力して火道づくりに取り組んでいました。

また、ドリーネ畑でゴボウの収穫作業を体験でき、ドリーネ畑について興味を持てたと思います。



火道づくり



ドリーネ内の草刈



ドリーネ畑



作業後の記念撮影

残された課題、今後の取組

今年度は、ドリーネ畑の活用に向けた検討を地域の方々と十分に進められませんでしたので、次年度に向けた取組内容や体制の検討を進めていきたいと考えています。

また、2月に、現地で火道づくりと山焼き火入れの活動を行う予定です。

グループ概要

大学等名	山口大学剣道部(構成:30名)
担当教員	辻 多聞
活動地域	阿武郡阿武町(うもれ木の郷)
活動期間	平成24年度～

受入組織の概要

農事組合法人うもれ木の郷は「地域の農地は地域で守る」との思いで設立された、農地の有効利用と効率的かつ安定的な高生産性農業の実践を目指す法人

取組の概要

【地域ニーズ】

高齢化に伴う地域における若い感性と体力、そして山口県の若者層による消費者ニーズ

【活動内容】

○平成24年度

2012/06/16・17 うもれ木の郷における草引き交流会(水田除草・懇親会・民泊)

2013/03/12 農村再生討議会一次年度交流会の発展に向けて

○平成25年度

2013/06/08・09 うもれ木の郷における草引き交流会(水田除草・豆腐作り体験・地域散策・懇親会・民泊)

これまでの活動成果等

<受入地域>

- ・地域住民による除草作業の軽減
- ・懇親会や民泊による大学生への親近感の向上
- ・高齢化の進む地域住民の生きる活力の増進
- ・消費者ニーズの再確認と労働意欲の向上

<大学生>

- ・農業(生産すること)への興味や関心
- ・共生意識に関する気づき
- ・目的を持つことやその実行力の必要性への気づきなどによる社会人基礎力の育成

<総合的>

地域住民による現在の地域社会の発展と、大学生による未来の社会の発展が同時に進行している。すなわち継続的な地域発展につながる事業といえるだろう。



残された課題、今後の取組

- ・両者の関係が築かれ始めたばかりであり、継続的な交流が必要である
- ・2年目による慣れが労働に関する緊張感を下げているかもしれない
- ・大学生がよりその地域およびニーズを深く知り、興味を持つ必要がある
- ・夏季練習中のうもれ木からの差し入れや試合結果報告など草引き交流会以外の両者の交流はあるが、より親密な交流およびその機会を1年を通じた形で必要であろう



山口県総合企画部 中山間地域づくり推進課
〒753-8501 山口市滝町1-1
電話:083-933-2549 FAX:083-933-2559

やまぐち中山間地域づくりサポートセンター
〒753-8502 山口市桜畠3丁目2-1
電話:083-928-3405 FAX:083-928-5622